

30年度 10月 園だより

- <教育目標> ・元気に遊ぶ子ども
・豊かに感じる子ども
・考え工夫する子ども

H30. 9. 28 文京区立本駒込幼稚園



体を動かす楽しさを



園長 原田幸子

秋の涼しい風を受け、子どもたちは元気いっぱい走り回り、投げたりして、いろいろな動きに挑戦しています。特に年長組は、運動会に向けて意欲が高まり、リレーやバルーンなどにはりきって取り組んでいます。その様子を年少組や年中組が興味深げに見入っています。

「バトンをもらうときは前を向いたままで、走りながらもらうんだぞ」小学校時代に二つ上の兄が、自宅近くの公園でリレーの特訓をしてくれた時の言葉を懐かしく思い出します。3年生から6年生までの合同リレーで、私のチームはいつも最下位でした。見かねた兄が「バトンの受け渡しを上手にすればもっと速くなる」と私を公園に連れ出し、バトンパスのこつを教えてくださいました。たくさんの観客に注目されたり、勝敗がはっきりしたりする運動会は、私にとっては苦手な行事でしたが、両親や兄の励ましで、毎年乗り切っていたように記憶しています。そのような経験から、幼児期には自分なりに体を動かして楽しむことをたくさん経験し、運動が好きになってほしいと切に願うのです。

本園の運動会で、年少組、年中組のかけっこでは着順はつけません。みんな一生懸命走ったからみんな一番。それでよいのです。友達のことを意識できるようになる年長組では、友達の動きもよく見えるようになり、友達と力を合わせたり、競ったりすることで、満足感や達成感が高まります。「負けて悔しい」「こうやったら勝てた」という様々な経験を積み重ねることで、体力が向上し、身のこなし方も機敏になっていきます。

<幼児期運動指針>では、体力や運動能力の向上の必要性について次のように書かれています。「幼児期に遊び・運動をするときは、状況を判断してから、体を動かすまで脳の多くの領域を使います。すばやい方向転換に加え、状況判断・予測などを行う全身運動は脳の運動制御機能や知的機能の発達に良いとされています。また、遊びを自分たちで新たに創り出したり、ルールを状況に応じて変えたりすることは、豊かな創造力を育みます。」(文部科学省 幼児期運動指針より抜粋)

本園の教育方針で大切にしている、幼児が興味をもって自分から取り組み、自分で考え工夫し、挑戦できるようにすることを運動会に向けての取り組みの中でも、大切にしています。うまくできた、速かったなどの結果を褒めるだけではなく、取り組みの過程でも様々な体験をする子どもたちに温かいエールをお願いいたします。

